

2024年6月22日（土）

老球の細道807号

ビル・ウォルトンとジョン・ウッデン

バスケットボールコーチ 室井 富仁

NBA で活躍したレジェンド、ビル・ウォルトンが先月、長いガン闘病の末、71歳で亡くなった。私と同世代で、彼の活躍は今でも鮮明に覚えている。

ウォルトンはジョン・ウッデン率いる UCLA で3年連続年間最優秀選手に選出された。NBA でもポートランド・トレイルブレイザーズをタイトル獲得に導き、彼自身はファイナル MVP に選ばれた。プロとして最後はボストン・セルティックスで2シーズンプレイし引退。その後解説者として活躍し、93年にはNBA 殿堂入りを果たした。

引退後は自分がデモンストレーターとして「ビッグマンムーブ（ポストプレイ）」のビデオを作成し、ジャパンライムから日本でも発売された。私はすぐにそれを購入して自チームのセンタープレイヤーの養成に多いに役立たせてもらった。

ビル・ウォルトンを語る時に欠かせないのは、彼の UCLA 時代のコーチ、ジョン・ウッデンとの関係だろう。アブドル・ジャバー（当時はルー・アルスインダー）を卒業させ、さらに NCAA 連覇を目指すウッデンにとって次世代のセンター、ビル・ウォルトンは貴重な人材であった。しかし、ウォルトンは大学入学前から注目を浴びたスーパースターで、わがまま王様プレイヤーだった。彼がウッデンの指導に従うかどうかは当時注目された。

コーチ、ウッデンはチームワークを重視する。個の栄光よりチームの栄光を優先する。特にチームのスーパースターのわがままを絶対許さなかった。当時のウォルトンの「髭剃りエピソード」は有名である。髭を剃って練習に参加せよというウッデンの指示に従わなかったウォルトンは一時チームから外されたことがあった。まさかそこまでするとは思わなかった天下のウォルトンは、ふてくされて退部するのではないかと心配されたが、いたく反省し、その後はウッデンの指示に素直に従うようになったという。そして、ウッデン率いる UCLA は前人未踏の NCAA 9連覇10回優勝を成し遂げたのである。

問題児だったウォルトンは大学卒業後にウッデンのことを次のように評した。

「人生で成功を収めるために必須となる人間の価値と資質を教えてもらった。ウッデンの言葉にはいつも逸話と詩が含まれている。毎日2時間の練習は、スキルの向上を目指して反復することを求め、彼の教育理念が休むことなく浴びせられた。常に前向きであり、常に将来のことを語ってくれた。一貫して求めたのは質の高い人間になること。UCLAでウッデンコーチのためにプレーすることは特権であったし、楽しい経験だった」

ウォルトンは心からウッデンを尊敬していた。人気と尊敬は違う。優れたコーチは例外なく選手から尊敬され、人生に大きな影響を与えている。選手から尊敬を獲得するにはどうすればよいか。かつてNBA、ボストン・セルティックス・ヘッドコーチで10回の優勝経験を持つレッド・アウエルバッハは言う。「尊敬を得たければ選手を尊敬すればよい。ただそれだけだよ」。天才コーチから天才プレイヤーが育てられる。